

# 福岡市長賞

## 「みんなで支える福岡に」

福岡市立下山門中学校 3年

小林 加奈子

この春休みに私は決心しました。「早起きをして、走ろう。」と。

運動音痴で早起きが苦手な私にとって、これは一大決心でした。理由は、高校受験を前にしての体力作りと、そして何よりも健康に良いと考えたからです。

と、いうのは建て前の理由であって、実はホークスの選手が早朝にジョギングをしているという噂を耳にしたからなのでした。

しかし、一人では心細いので同じホークスファンの友人を道連れにして走ることにしたのです。春休みに入ると同時に朝、六時に起きてもち浜まで自転車を走らせました。もう季節は春だというのに、早朝の空気は冷たく、自転車のハンドルを握る手は感覚さえなくなるほどで、眠気も一気に飛んでいってしまいました。海岸に着くと、更に頬をきるような冷たい潮風が私達を待っていました。その中を友人と二人、無言で走ったのです。向こうからホークスの選手が走ってくるのを願って、ただひたすらに。

白い息を吐きながら必死で砂浜を走っていると、やたらとゴミが多いことに気付きました。普段の私からは考えられないことですが、翌日からは軍手とスーパーの袋を持ってもち浜へ向かいました。海岸には、空のペットボトルに、片方だけのサンダル。海水をたっぷり吸い込んだ座布団など訳の分からないゴミが至るところに転がっていました。初めはジョギングが目的だった私達ですが、気がつくといつの間にか黙々とゴミ拾いに専念していたのでした。

ふと辺りを見回すと、私達と同じように袋を片手にゴミ拾いをしている人達の姿がありました。

何も考えずにゴミを捨てて行く人もいれば、何も言わずにゴミを拾って行く人もいるのです。ゴミが落ちている事に腹を立てるだけで、拾おうとする行動を起こさなかった今までの自分がとても恥ずかしく思えました。

きれいになった海岸を前にして、おにぎりをはお張りながら見た朝日はとても美しく、まっ赤な太陽は、私に大きなエネルギーを与えてくれました。

私は、ホークスと同じくらいこの福岡の町が大好きです。

しかし、福岡市の財政は今、とても厳しいと言われています。市民一人当たり約百八十五万円の借金を抱えているのが現状なのです。この借金を少しでも減らすためには私達、市民の協力も必要となります。例えば、ゴミを減らすことだけでも税金の無駄遣いを減らすことにつながるのです。一人一人のちょっとした心掛け次第で、福岡の未来を変えていくことができます。

いつまでも美しい朝日が見える、この町であり続けるためにも・・・。